



令和
4年

10月1日 土

13時10分 ↓ 14時40分

口の役割は何だろうか？

目を見る、耳なら聞く。

口は…食べる？喋る？

喋る方を研究している日本語学者

も、研究素材から論を組むことを

「料理する」って言ったりしま

す。この世界にいろんな食材が

あって、それぞれにいろんな

料理法があるように、日本語

学の世界でも料理の仕方は

実にさまざま。

今回は、専門を異にする日本

語学者三人が、「食」という言

葉をテーマに料理対決。「食」に

まつわる言葉Ⅱ「食」材を、歴史で

切って、地域で和えて、日常の中で

煮込んだら…？

「食べる」を「しゃべる」。

さあ、食うか喰われるか。



参加無料・特設サイトで要予約

会場：オンライン及び昭和女子大学オーロラホール(三軒茶屋)

申込： <https://swuhp.swu.ac.jp/university/nichibun/openlecture.html>

主催：昭和女子大学日本語日本文学科(問合先 03-3411-5019)

「食べる」ことをどう言うか

ーことばの賞味期限



昭和女子大学准教授

(日本語史・古典教育)

須永哲矢

肉じゃがの肉は豚？牛？

ー方言で料理する



昭和女子大学教授

(日本語のゆれ)

嶺田明美

息子と母と料理と

ーコミュニケーションのかたち



昭和女子大学専任講師

(日本語とコミュニケーション)

宮寄由美

第10回昭和女子大学日文公開講座 登壇者プロフィール



昭和女子大学准教授
すながてつや
須永哲矢

古典語教育との運動を意識した文法論を中心に研究。共著に『コーパスで学ぶ日本語 日本語の歴史』（朝倉書店2020）『新しい古典・言語文化の授業』（朝倉書店2019）論文に「形態素解析と古典教育―簡単な情報処理技術を利用しての教材作成の可能性―」（『日本語学』35・13）など。



昭和女子大学教授
みなだあけみ
嶺田明美

現代語の位相を中心に研究。「従属節内の丁寧体について」「アンケートをもとにした、ゆれの調査結果―」（『学苑』963号）、「形容詞」「高いの使用実態について（4）―X性の程度を表す用法―」（『学苑』929号）、「作手村誌本文編」第6編第4節「方言」など。



昭和女子大学専任講師
みやせきゆみ
宮寄由美

現代の対面に限らないコミュニケーションを中心に研究。平成28年度基盤研究(C)16K02714「LINEにおける待遇表現ストラテジーの計量的研究」、共著に『日本語の大疑問 眠れなくなるほど面白いことばの大疑問 国立国語研究所編「幻冬舎新書2021」など。

お申し込み方法

- 1 日文公開講座のページへアクセス
<https://swuhp.swu.ac.jp/university/nichibun/openlecture.html>
- 2 申し込みフォームにメールアドレスなどを入力し送信

後日、参加方法を記したメールをお届けします
当日はリアル会場またはメールに記載のURLにアクセスして視聴



リアル会場へのアクセス
昭和女子大学8号館6階オーロラホール

東京都世田谷区太子堂1-7-57
東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車
南口A出口から地上へ
国道246号線を渋谷方面へ
（階段を上る方向でそのまま直進）
正門まで約400m・徒歩約7分

